

埋木細工2.0

日時：平成25年10月4日金～9日水

10時～19時（最終日は18時まで）

会場：東北工業大学一番町ロビー

「埋木細工 2.0」展開催によせて

産業として栄えた時代は終わり、その名のとおり世に埋もれつつある埋木細工。2012 年の亜炭香古学では「わが家の埋木細工展」として、各家庭にある埋木製品を、入手のエピソードとともに紹介・展示しました。広く普及していた時代を知る人も知らない人も、あらためてその質感と背景の深さに目を奪われました。企画した私たち自身もこれを過去のものと思い込み、原木を見ることなど出来ないと考えていましたが、かつての埋木店主や地元愛好家との縁を得て、幸運にも少量の埋もれ木を入手することができました。また、最後の埋木細工工人といわれた小竹孝さんのところにお弟子さんが入り、我々同様、埋木での制作を試みている方がほかにもいることを知りました。この絶滅寸前の埋木文化に意外にも新しい動きが芽生えつつあるいま、現代の暮らしにあう平成の埋木細工とはどんなものを、若い木工作家に提案してもらう試みとして「埋木細工 2.0」展をクラフトフェアで開催します。

主催：仙台市、(公財)仙台市市民文化事業団

協力：杜の都のクラフトフェア実行委員会

サンモールー番町商店街振興組合、東北工業大学一番町ロビー

南町通りオープンギャラリー くろすろード

助成：(財)地域創造

※「2.0」は、新世代のもの、バージョンアップをなぞらえた表現。

※この企画は「対話の可能性 亜炭香古学～足元の仙台を掘りおこす」の一プロ
グラムです。 <http://www.sendaicf.jp/atan2013/>

埋木とはどんなものか ー埋木と亜炭ー

一般に、海や沼などの水没材や土埋木（屋久島）、珪化木の総称ですが、今回はここ仙台で採れる埋木（山埋木とも呼ばれる黒い炭化木材）と、水没材である「川埋木」の作品を展示します。

山埋木は400万年ほど前に土中に埋まった樹木が圧力と地熱で炭化して出来る亜炭の一種で、亜炭層から採掘されます。土圧で扁平に圧縮された丸太が地下水に浸った状態で堆積し、採掘後に乾燥させると大半がひび割れ、焚きつけやすいそれらを亜炭燃料、密度が高く割れないものや比較的均質なかたまりを埋木として扱いました。

元の樹種はセコイヤ、カシ、ハンノキ、ブナ類と考えられていますが、素材感は堆積した環境によっても差があり、炭化が進んだ黒く硬質のものを「黒埋木」、やや軽くて加工しやすく茶色のものを「赤埋木」ということもあります。そう頻繁に出るものではなく、掘り当てた際は鉱業権者であることも多かった当時の埋木加工業者は掘り賃を増額して入手したといいます。

採掘された埋木は日陰で数年乾燥させたのち加工され、ノコギリ、専用ノミなどで成形したあとトクサやムク葉で研磨します。木としての弾性はなく、繊維方向のみならず直交方向にも簡単に割れる特性を持ち、鋭利な角や薄い部分は欠けやすいので意匠と工程には制約があり、その差が各工房の作風となっていたといいます。最後に漆で仕上げると、再び深く美しい木目が現われます。

また、かつて万葉集などにも詠われた「川埋木」は名取川産のものが世に知られていましたが枯渇して久しく、もはや幻と考えられていました。数千年の間水につかっていた巨木が洪水などの際に出てきたものですが、炭化はしておらず、木材としての加工が可能です。現在阿武隈川でそれらを採集、研究しておられる会の作品を、今回1点ご紹介します。

かつての豊穡な木の文化に支えられた人々の生活に思いを馳せ、路傍の石木が一冊の本のように感じられますように。



お問い合わせ

(公財)仙台市市民文化事業団 事業課

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘三丁目 27-5

電話：022-301-7405 FAX：022-727-1874

メールアドレス：info@sendaicf.jp